

親切（やさしさ）とは何か

長野県 山ノ内中学校 2年 佐怒賀 優介

僕の名前は「優介」といいます。「優しく介護する」、つまり両親は僕に、「誰にでもやさしく接し、傷ついた人がいたら声をかけて支えてあげてほしい」という願いを込めて、この名前をつけたそうです。

でも、僕は人見知りで、誰とでも仲よくできるわけではないし、ましてやさしい言葉をかけるなんて恥ずかしくてできません。そんな僕がこれまでにみせた一番の親切を母に聞いたので、ここに書きます。

それは、僕がまだ小学校1年生の時のことでした。そういえばちょうど今頃です。8月16日の夜でした。祖母が突然倒れたと知らせが来ました。父の実家の墓参りをしていた僕たちは、一泊する予定を変更して、すぐ家に帰る用意をしました。

病院に着いたのは、もう夜中の12時を過ぎていました。病室には、先に付き添いをしていた祖父が肩を落として座っていました。しばらく僕と兄と弟、両親で祖母の様子を見守っていましたが、「すぐには容体は変わらないから」という医者言葉で、家に帰って寝ることにしました。

母は残ることになり、僕が「ぼくも帰らない!!」と言ったそうです。なので、僕と母で祖母のベッドの横に座りました。祖母の命の波形は小さく小さくなっていきます。僕が、「ばあちゃん！ かつぱずし行こうねー！」と声をかけると、命の波形は大きくなります。そして、また沈黙になると命の波形は小さくなります。母と僕で声をかけるとまた、波形は大きくなり、僕は「ばあちゃん、もっと抱っこしてよ」とか「ばあちゃん、もう少しおこづかいもらいたいよ」と、声をかけ続けたそうです。

しばらくがんばりましたが、2時近くに僕はとうとう眠ってしまいました。そして、祖母は3時半に天国に行きました。

母は当時のことをふり返るたびに、「優介が残ると言ってくれて、本当にうれしかった。一人ではつらすぎた。そしてずっとばあちゃんに声をかけてくれて、やさしい子だどつくづく思った」と言います。

でも実は、僕はこのことをあまりよく覚えていません。祖母との思い出もあまりありません。

親切、やさしさとは、自然と出てくるものなのかなと思います。日頃の感謝の気持ちも、知らず知らずに言葉や態度に出るから、「私は、あのときこういう親切をした」と言うのとは違うんじゃないかな。だから僕は、自分の知らないところで、「優介君に親切にしてもらった」と言ってもらえるようになりたいと思っています。